

エシカル消費とCSRで阿波市の子育てを応援

子育て支援

寄付付き商品

地産地消

NPO法人あわ・みらい創生社

代表者：代表理事 井原 まゆみ
所在地：徳島県阿波市阿波町四歩一55番地
設立認証：平成28年5月10日
会員数：25人(役員6名)
活動分野：まちづくり、地域ビジネス支援、まちの魅力発信

○事業・活動の概要

自然との共生、地域との共存を心掛けながら、阿波市が元気になる様々な地域活動のコーディネーターやプロデュースをしており、市民が安心して暮らせる、安心して子育てができるまちづくりを目指している。

○エシカル消費について

あわ・みらい創生社のミッションの一つである「まちづくりに関わる人を増やす事業」の一環で開催したセミナーで、寄付付き商品の販売の取組や地域貢献の事例などを知った。また、セミナーに参加していたファミリーサポートセンターの職員から、料金がネックで利用できない保護者がいるということも伺った。そこで、寄付付き商品の販売と企業のCSRを組み合わせた支援の方法を考え、平成29年10月から、「うちの子もよその子もまちのたから」をキャッチフレーズに誰もが子育て支援に参加できる仕組み「エシカル消費&CSRで子育て支援」活動を平成29年10月からスタートした。

○事業・活動について

平成29年10月に鹿とハートをモチーフにした小さな丸いシール「エシカルシール」を作成した。販売店は20枚1シートを600円で購入し、地元で生産された商品や農作物に貼る。一方で消費者は、シールの貼られた商品を購入する際に追加で30円を支払うことで、地域の誰もが気軽に寄付ができる仕組みを作った。

販売店ではもともとある商品にシールを貼るだけなので、商品開発の手間が掛からない。また、シールを貼った商品が売れなかった場合、別の商品にシールを貼り替えることもできる。

また、地域の企業を訪問して子育て支援のための寄付を依頼した。平成29年12月には企業からの寄付36万円とシールで集まった4万円の合計40万円を、ファミリーサポートセンターの本部である公益財団法人徳島県勤労者福祉ネットワークに寄付した。この寄付金で平成30年度の阿波市ファミリーサポートセンターの利用料が1時間700円から500円になり、保護者が利用しやすくなった。



○課題と今後の目標

シールが貼られた商品の近くにはこの活動の主旨を説明するPOPも一緒に設置されており、シールが貼られていない商品にシールを貼ってもらってから購入するお客さんも現れ始めた。協力してくれる店舗は増えてきたが、大きな店舗ではシール付き商品の売上げと寄付金の仕分けに手間が掛かるので、バーコードを付けてほしい等の要望もあった。

今後も地域住民が主体となって様々な活動を行い、暮らしやすいまちづくりを行っていくことで、阿波市を「エシカルタウン」にすることを目標としている。

○他の団体や企業との連携について

平成30年1月には、阿波市内のショッピングセンターでエシカル消費に関心のある消費者が、店舗にある環境に配慮した商品などを持ち寄り、事業者と消費者が互いの知識を共有し、協力できる関係づくりを行った。

また、平成30年3月には「とくしまエシカルアカデミーin阿波市」を開催し、エシカル消費に関心を寄せる約60名の消費者や事業者が参加し、地域でできるエシカル消費の取組などを学び、エシカル消費とは何かを学んだ。

他にも、徳島県が実施している「とくしまエシカル宣言」に賛同し、平成29年10月に「エシカル消費自主宣言」を行った。同時に、他の事業者にもエシカル消費の取組を勧め、平成30年5月末には阿波市内で合計6事業者が「エシカル消費自主宣言」を行うなど、エシカル消費の普及にも積極的に取り組んでいる。

公表日：平成30年6月27日 取材：平成29年12月

